

IEA石油市場レポートの概要（2017年6月14日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 最近の需要の弱さは一時的なものであることが証明されるであろう、特にインドの貨幣改革の後において。世界の石油需要の伸びは2017年第1四半期に90万バレル/日に留まっていたが、第2四半期には伸びが加速し、2017年を通じては我々が予想した130万バレル/日は維持されることになるだろう。2018年には需要の伸びは140万バレル/日ともう少し上昇し、9,930万バレル/日という過去最高の需要量になるだろう。
2. 世界の石油供給は、OPEC加盟国と非加盟国の両方が増産したため、5月に58.5万バレル/日増加し、9,669万バレル/日となった。生産量は一年前より125万バレル/日上回っており、2016年2月以降の年間増加としては最も大きい水準。
3. 5月のOPEC加盟国の原油生産は29万バレル/日増加し、3,208万バレル/日と今年最高になった（OPECの減産合意の対象外となっているリビアとナイジェリアの生産量回復による）。減産合意に拘束される加盟国の生産量は幾分減少しており、それにより合意の遵守率96%という強い遵守が維持されている。
4. 4月のOECD加盟国の石油民間在庫は、精製量と輸入量の増加に伴い1,860万バレル（62万バレル/日）上昇した。この在庫量は5年間の平均を2.92億バレル上回り、OPECの減産合意時よりも大きい。5月については、暫定的なデータによれば、UEAのフジャイラ、日本、ヨーロッパ、シンガポール及び洋上タンカーでの在庫は減少している一方で、米国と中国で増加している。
5. 原油指標価格は5月23日の後、世界の石油市場のリバランスのペースについての低い期待を反映して、下落した。このレポートの出版時点では、OPECの減産合意時の水準に近い原油価格となっている。燃料油や石油製品については、硫黄分の高い原油の逼迫により、在庫量が過去2年で最低水準まで下がり、価格が上昇した。ガソリンとナフサの価格は下落した。
6. 4月と5月の米国の記録的な精製量により、2017年の第2・第3四半期の我々の予測を上方改訂する。世界の精製量は、2017年第2四半期に8,000万バレル/日に、第3四半期に8,130万バレル/日に達すると見込まれる（それぞれの四半期で前年同期比110万バレル/日の増加）。2017年第3四半期の精製量の増加は、米国と中国東部に主導される。